

No. 379【2019年10月25日配信】

「発掘された日本列島 新発見考古速報2019」を見学して(担当:児玉)

こんにちは。文化財課の児玉です。

先日、三内丸山遺跡センターで開催中の「発掘された日本列島 新発見考古速報 2019」を見学しました。全国では年間約8,000件近い発掘調査が実施されていますが、この展示では、近年発掘された遺跡のなかで特に注目を集めた12遺跡について速報展示が行われています。今回は、個人的に印象深かった展示をいくつか紹介したいと思います。

まずは、旧石器時代の^{すみふるさわいせき}墨古沢遺跡(千葉県酒々井町)です。この遺跡では、約34,000年前の石器集中部やたき火跡が、巨大な円を描くように検出されました。これら痕跡の脇にはテントのような施設が並んでいたと想定されています。円の大きさは、南北径70m、東西径60mで、旧石器時代の村としては日本最大級です。

青森県内からは、白神山地東麓縄文遺跡群(西目屋村)の出土品が数多く展示されていました。この遺跡群は、縄文時代草創期から晩期(約15,000~2,300年前)の長きにわたって連綿と営まれた複数の遺跡から構成されており、今回の展示では各時期の出土品が並んでいました。これらの展示の中で、ひときわ目を引くのが土偶です。水上(2)遺跡出土の縄文中期の^{しきやくつき}四脚付土偶は、四つの脚がついた舟のような形の土製品に土偶の上半部がくっついています。舟に乗っている姿をかたどったのでしょうか。また、川原平(1)^{かわらたいかつこいちいせき}遺跡から出土した縄文晩期の遮光器土偶や土偶の顔が付いた土器が複数展示されていました。

展示室の中央には、古墳時代前期末から中期初頭(4世紀後葉)^{かなくらやまこふん}の金蔵山古墳(岡山県岡山市)と古墳時代後期(6世紀初頭)^{ぎょうきたいらさんちようこふん}の行基平山頂古墳(栃木県足利市)から出土した埴輪が数多く展示されています。青森県では埴輪の出土例がないので、とても新鮮に感じました。

「われにより おもひくく(る?)らむ しげいとの あはずやみなば ふくるばかりぞ」これは、山梨県甲府市のケカチ遺跡から出土した平安時代(10世紀)の土師器の皿に、31字の仮名文字が刻み込まれた和歌です。この和歌は、10文字目を「く」と詠んだ場合と、「る」と詠んだ場合の2つの案が考えられており、前者は「我により 思ひ繰らむ 絃糸の 遭わずやみなば 更くるばかりぞ」で、後者は「我により 思ひ暮るらむ 絃糸の 遭わずやみなば 更くるばかりぞ」となっています。この中の「絃糸」は、^{しげいと}繭の^{まゆ}上皮から取った粗末な糸を意味し、恋の和歌で用いられる言葉でもあることから、惜別の思いを詠んだものとみられます。

^{とやまじょうかまちいせき}富山城下町遺跡(富山県富山市)では、昭和20年(1945)まで営んでいた陶器店の跡地が発掘調査され、4,000点以上もの^{しゅはい}酒盃が出土しました。その中には、昭和15年に開催予定であったものの、その後開催を辞退した幻の東京オリンピックを記念した酒盃(岐阜県多治見市で作られた美濃焼)が含まれていました。この酒盃は、来年に控える自国開催の東京五輪のタイムリーな話題として、本展の目玉の一つとなっています。

本展は、11月4日(月)まで三内丸山遺跡センターで開催されています。見どころいっぱい展示となっていますので、この機会にぜひご覧下さい。